

ICTの効果的な活用を目指した学習活動の実践

－ 第9学年つくばスタイル科における実践を通して －

つくば市立桜並木学園並木中学校 教諭 市原 猛

キーワード：BigPad, スタディノート, e-黒板支援システム, つくばスタイル科

1. はじめに

平成24年度より、つくば市の全小中学校は文部科学省の教育課程特例校の指定を受け、つくば市ならではの9年間を貫くカリキュラム「つくばスタイル科」が創設された。ここでは、「環境」や「キャリア」といった8つの内容について、発達段階を踏まえながら、それぞれ3つのステップ（In-About-For）で構成された



図 つくばスタイル科で学習する8つの内容

発信型プロジェクト学習を行っている。(1)

本実践では、この8つの内容のうちの「歴史・文化」について学習した。また、つくばスタイル科で育成したい力「つくば次世代型スキル」の一つICT活用力に焦点を当て、取り組みを行った。

2. 実践の特長・ねらい

(1) 実践の特長

第9学年（中学校第3学年※以下第9学年）のつくばスタイル科では、4月に行った修学旅行の体験をスタディノートにまとめていく活動を行った。スタディノートは学校内のLANを利用した教育用グループウェアであり、学習した内容をまとめたり、内容をデータとして共有したりすることができるソフトである。今回の実践では、修学旅行で体験したことと、つくばに関西の修学旅行生を誘致する旅行代理店のスタッフ（Trip Adviser）になりきり、旅行の企画を修学旅行のまとめとともに発表した。

発表のためのツールとして、BigPadを用いた。BigPadはまとめた内容をそのまま直接大型ディスプレイに写して発表できるという便利さに加え、タッチパネルの画面に文字を直接書き込むことができる。視覚的により分かりやすく伝えることができるという点からもBigPadの活用は有効なものであった。また、e-黒板支援システムを用いながら、重要なポイントにはアンダーラインを引くなど、プレゼンテーションの最中にも画面に書き込みを行い、聞き手側により注目させることを意識した発表ができるよう心掛けた。発表者が相手に何を伝えるのかを、ICTの活用によってより意識することができる実践となった。

(2) 実践のねらい

自分たちがまとめた学習内容を、ICTを活用しながらより分かりやすく、より相手に伝わるように発表し、発表者側・聞き手側の双方が、学習してきた内容について理解を深めることができることを本実践のねらいとした。

3. 実践内容

(1) 単元計画

第9学年4月の修学旅行に向けて第8学年の後半か

ら、修学旅行実行委員を選定し準備を進めてきた。準備を進める際には、つくばスタイル科での3つのステップを意識しながら、単元における学習計画を立てた。以下は3つのステップでのそれぞれの単元計画である。

(IN：課題を見付ける)

- ・修学旅行実行委員から、奈良の3つのコース（A：西の京散策コース、B：斑鳩散策コース、C：飛鳥路散策コース）について旅行計画を聞き、生徒一人一人が自分たちの行きたいコースを選択する。

- ・自分たちが選択した修学旅行プランに基づいて、旅行先の観光名所、歴史的背景を本やパソコン等の資料を使って調べる。

(ABOUT：情報を集める)

- ・実際に修学旅行へ行き、計画した旅行プランを実行し体験する。

(FOR：何ができるのかを考える)

- ・修学旅行で体験してきたことをもとに、コースごとにそれぞれの地方、建物の歴史等をスタディノートへまとめる。

- ・修学旅行で体験したことをもとにして、次は「つくばへ関西の修学旅行生を呼ぶなら」というテーマを掲げ、つくばを修学旅行の舞台として旅行計画を立てる。

- ・奈良の修学旅行で体験してきたことと、つくばへ修学旅行生を呼ぶ旅行プランをまとめ、Trip Adviserとなってスタディノートで発表する。

- ・発表したグループの中で特に優秀なものについては、つくば市内で行われるプレゼンテーションコンテストにエントリーする権利を得ることができ、そのコンテストで発表する。

(2) 授業実践

つくばスタイル科における、「日本やつくばの自慢を世界に発信」の単元(2)で、修学旅行での経験から、修学旅行のまとめと、関西の修学旅行生につくばを紹介するという企画を立てた。奈良とつくばの比較を通して、奈良・つくば、それぞれの良いところ、似ているところを再発見し、生徒が経験した奈良の旅行行程を振り返りながら、つくばを修学旅行で回るならどのような行程を組めるのかを考える学習を行った。

まずは、修学旅行実行委員を第8学年の後半の時期に選定した。事前に本やパソコンの情報から奈良の3



写真1 実行委員のプレゼンしたスライド

つのコースについて実行委員が調べ、スタディノートにまとめた。そして、まとめた内容をBigPadを用いてプレゼンテーションを行い、どのコースがよいか

を選んでもらった。実行委員は効果的にスタディノートに伝えたいことをまとめ、自分たちのプレゼンテーションしたコースを選んでもらうと意欲的に発表することができた。その後、選んだコースをもとにグループ編成をし、奈良方面はそのグループで活動を行った。グループごとにパソコンで行き先の情報を調べ、行程を組み計画を立てた。

旅行後に、奈良の修学旅行で体験したことをまとめた活動については、生徒が実際に行った場所で撮影した写真や、



写真2 奈良班の発表したスライド

インターネット等の資料を活用しながら各名所の名前の由来や歴史的背景などをスタディノートにまとめた。まとめた内容は発表活動の際にグループごとに発表した。実際に経験したことをもとに、活動内容をまとめたため、単にそれぞれの活動してきたことを伝えるのではなく、その時の想いや、大変だったこと、印象に残ったことなどを伝えることができた。



写真3 パソコンを使ってまとめる活動



写真4 スタディノートを使って発表する活動

つくばについては、奈良と同様にインターネット等の資料を活用し、奈良の経験を生かし、活動する時間を決めてつくばの町を旅行で回る行程を考えた。その中で、つくばでは科学の町として様々な研究機関がある

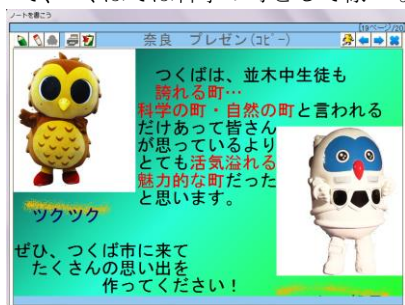


写真5 つくば班の発表したスライド

こと、筑波山をはじめとした自然豊かな町であることなどつくばの魅力を改めて発見し、それらを全面に押し出したプレゼンテーションを行うことができた。つくばをまとめるという活動については、自分たちが実際に奈良の修学旅行で経験した行程などをもとに資料を作ることができたため、とてもスムーズに行うことができた。また、プレゼンテーション資料をスタディノートにまとめ、それを直接発表することで、発表の際にはよりわかりやすく聞き手に伝わるようにまとめようとする意識が見られた。スタディノートにまとめた画面が、プレゼン資料の画面として映ることにつながるといことで、より精選された資料にすることができた。発表の際には、聞き手がより注目を引くもの

(写真や図など)を大きく取り上げることで、印象に残る発表を心掛けていた。

最後に、全体での発表活動について教師が評価を行い、その中で特に優秀な2グループ(奈良グループで1つ、つくばグループで1つ)を選定した。その2グループについては、市内で行われるプレゼンテーションコンテストにエントリーした。コンテストではプレゼンテーションをする時間が限られていること、伝える相手がさらに広がるということ、生徒は洗礼して資料



写真6 プレゼンコンテストでの発表の様子

を選び、より効果的に聞き手に伝えるにはどうしたらよいかを考え発表を行った。その結果、つくばグループは、市内予選を勝ち上がり、決勝大会で市長賞を獲得することができた。

4. 実践の成果

修学旅行のまとめをつくばと絡めて行うことで、どの生徒も意欲的に活動に臨むことができた。旅行の計画を立てる段階から、実行委員が中心となって活動を引っ張っていたため、生徒一人一人が主体的にコースを決めることができた。特に実行委員が3つのコースについて、ICTを用いてプレゼンテーションすることができたのも、コースを決定する上で大きな役割を果たしていたと考えられる。この活動をきっかけとして、コース別に修学旅行先を調べ、実際現地に行き体験するという一連の活動が生徒の意欲をより大きくしていたと考えられる。修学旅行先では、自分たちが立てた計画をもとに活動することができていた。まとめの段階では、奈良の経験を踏まえてつくばの魅力伝えるプレゼンテーションを考えることができていた。ICTを用いて効果的に魅力を伝える活動を通して、つくばに修学旅行へ来てもらえるのかを考え、聞き手側をより意識したプレゼンテーションを行うことができた。

5. 今後に向けて

ICTの活用場面を、調べる場面、発表場面において行ってきた。より効果的なプレゼンテーションを行うためにICTは必要不可欠である。子どもたち一人一人がICTを駆使して発表するためには、それらを活用していくスキルが必要となる。第9学年という発達段階だからその発表であり、そのスキルを身に付けるまでの活動がいかに大切であるかを感じた。

また、ICTを用いた活動をより効果的に行うためには「何を」題材とし、「いつ」行うのかを明確にして計画を立てることが大切である。今後はICTの活用場面を単元計画に盛り込み、より効果的に学習活動を展開していきたいと考える。

参考文献

- (1) つくば市教育局教育指導課編著 『平成27年度学校教育指導方針』 p.13—17 2015年4月
- (2) つくば市総合教育研究所編著 『つくば発！小中一貫教育が世界を変える 新設「つくばスタイル科」の取り組み』 p.114—115 2012年 東京書籍株式会社発行